

事後観察

本号にも引き続き、河田会長の巻頭言をいただく予定であったが、筆者の不注意から、否応なく自身で駄文をものしなければならぬ羽目となった。その困惑はもとよりだが、それにも増して、万死に価する読者への非礼の罪、願わくはご諒恕を賜われかしと、ひたすら乞い願うのみ。

さて、わが家にも苗木ばかりを植えた、ささやかな庭がある。年間7カ月は、除草のため、老妻の苦勞の種となっている。あまり気の毒なので、時には除草剤を撒いて、その勞の軽減を図っている。利用する噴霧器は、肩掛式で、噴孔は勿論1個しかついていない。

撒き終わると、器具を洗う前に、撒いた跡をひと通り観て廻るのが習慣であるが、意外なことに、雑草の多い部分に撒布量が充分でないことを発見し、補完撒布をしなければならぬことが屢々である。

1つの噴孔から出る霧は、ドーナツ型に分布することは、30年も前に、先輩本田哲致技師から教えられ、今でもよく覚えていることであるが、どうしても雑草の多い部分を的に噴孔を向けたくなるのである。筆者だけの悪癖ではなく、共通の習性なのかも知れぬ。

もう一つの筆者の習慣は、撒布後1週間くらいは、毎日処理雑草の生態的变化を観て廻ることである。それによって、名も知らぬまま、各雑草の撒布薬剤に対する抵抗力がわかり、補完作業を適期にしたり、次の撒布に当って撒布薬の濃度や量を加減したりして、雑草退治が思いのほからくのできる効能があった。

農業上での除草剤撒布は、薬剤も機械も方法も十分に研究されているので、この場合とはそ

目次

世界の除草剤の動向(3)

5. 米国における除草剤の使用状況… 2

科学技術庁科学審議官

農学博士 石倉 秀次

九州における除草剤利用の

現状と今後の問題点

1. 水田作 ……14

2. 冬作 ……16

3. 夏畑作 ……17

4. その他 ……18

九州農業試験場作物第1部

農学博士 野田 健児

昭和43年度果樹・特作関係

除草剤・生育調節剤試験成績概要

1) 供試除草剤の動向 ……18

<第1表>年次別供試薬剤数の推移…18

2) 試験結果の概要 ……19

<第2表>供試薬剤成分一覧表 ……19

<第3表>昭和43年度果樹園・

茶園・桑園・林地関係

除草剤・生育調節剤

験実用化判定一頼表

<第4表>実用化薬剤使用基準一覧表

(財) 日本植物調節剤研究協会 ……21

新除草・調節剤

○PEBC乳剤 ……22

○DCPA・CMP除草剤 ……22

○DBN粒剤 ……23

の実態が異なるであろうが、事後観察とそれに
応じた補完作業や次回での工夫の重要度は、同
じことであるかも知れぬ。(和田)